

にも切見世あり、美なり、麻布市兵衛町の裏は谷なり、此處に切見世の大廓あり、同鳥居坂の下に、藪下として切見世ありしが、天保八九の頃、有馬家の下部と諍論して絶たり、鮫ヶ橋に切見世貳ヶ所あり、爰にも夜鷹屋有て吉田町におなじ芝三田同朋町に、三角として娼家五六軒あり、麥飯と同じ切見世もあり、天明の頃きり見世を五十雜さまと呼けるよし、價も五十銅なればにや、百銅となりて鐵炮店といふにや、○中されば右に擧たる江戸中の娼家貳拾七ヶ所、野郎や四ヶ所なり、外驛場の娼家五ヶ所、品川新宿、小塚原、千住、板橋あり、吉原を加へて四拾ヶ所にも及ぶべし、かくのごとく悪行の者どもまさりて風俗を亂し、綱常を破ることすくなからずとて、此度の公令に依て、吉原と驛場の外は娼家ことごとく取拂はれて、俄に家業を改めて商人になるもあり、家を移して他郷に走るも有、さしもに建つらねたる高樓妝閣、一時にとり毀れて、荒原とぞなりにける、是よりして都下に遊民なく、工商おのゝ、其業を勤めて、げに有がたき聖の御代の御政とも仰ぎ奉るべし、

〔嬉遊笑覽娼妓〕處々の新地のこと、居行子後篇安永五年刻愚も七八歳のころ、祇園新地もいまだ建そろはで、そこかしこ草生じけり、薄と家と入まじり、まばらなりしを覺侍る、その邊今は大やしき賣買には、千兩二千兩の價となる、北野の新地も、五十年ばかりのむかしは、三番町五ばん町と段々に開け、はん昌なりしが、移りかはり、此近年はさびしく成たり、むかしの景清ほどの武士の通ひしときく五條坂も、今は一二軒そのしるのみ残り、田島野原なりし七條新地は、五條より建つゞき甚にぎはし、二條新地も、川ばたの茶やは、むかし若狭街道の茶店の株にて、それよりのみ酒にうつり、色にうつり、こそくしたる處なりしが、段々とはん昌し、次第に建つゞき、野中にありし非人小屋、今は新地と町つゞきに成たり、頂妙寺新地も、二條新地と町つゞきになる、今出川新地も、その前後のころより建しが、今はいかう閑さむたり云々、